

## 1. 古賀駅周辺地域の特性、課題等

- ・福岡市～北九州市間にあって、JR鹿児島本線沿線の都市との都市開発競争が顕著になっている。
- ・広域的な交通利便性の高さの反面、中心市街地における交通ネットワークや都市基盤の整備が不十分である。
- ・中心市街地では、空き家や駐車場用地等が点在しており市街地の更新が遅れているため、居住需要を受け止めることが十分には出来ていない。
- ・都市型製造業や食品加工業などの工場の集積や広域的な医療施設が立地しており、周辺都市と比較しても特長的な構造となっている。

## 2. まちづくりの視点

### 視点1. 豊かな居住・生活環境の形成

---

⇒まちなか居住環境の向上を基本に据えながら、魅力的な市街地の形成に向け、多様な居住需要をうまく受け止めていく。

### 視点2. 商業・サービスと人々の生活が一体となって「私たちのまち」としての成熟

---

⇒地元のニーズに応えていくことはもちろんのこと、周辺地域から訪れる人々にとっての利便性を高めるなど、古賀市ならではの魅力づくりによって、市内外から人を呼び込み活力を維持する。

### 視点3. 安心・安全で生き生きと暮らせる古賀市の拠点の形成

---

⇒そこに住むひとが出会いやまちの賑わいを楽しみ、また施設等の利用者が本来の用件と併せてまちの雰囲気を楽しむことができる安全で快適な環境を創っていく。

### 視点4. 子育て世代から高齢者まで住み続けることができるまちづくり

---

⇒様々な世代、世帯形態に対応した多様な住宅の供給、ニーズに合った生活サービス機能の充実により、いつまでも安心して快適に住み続けることができる環境を創っていく。

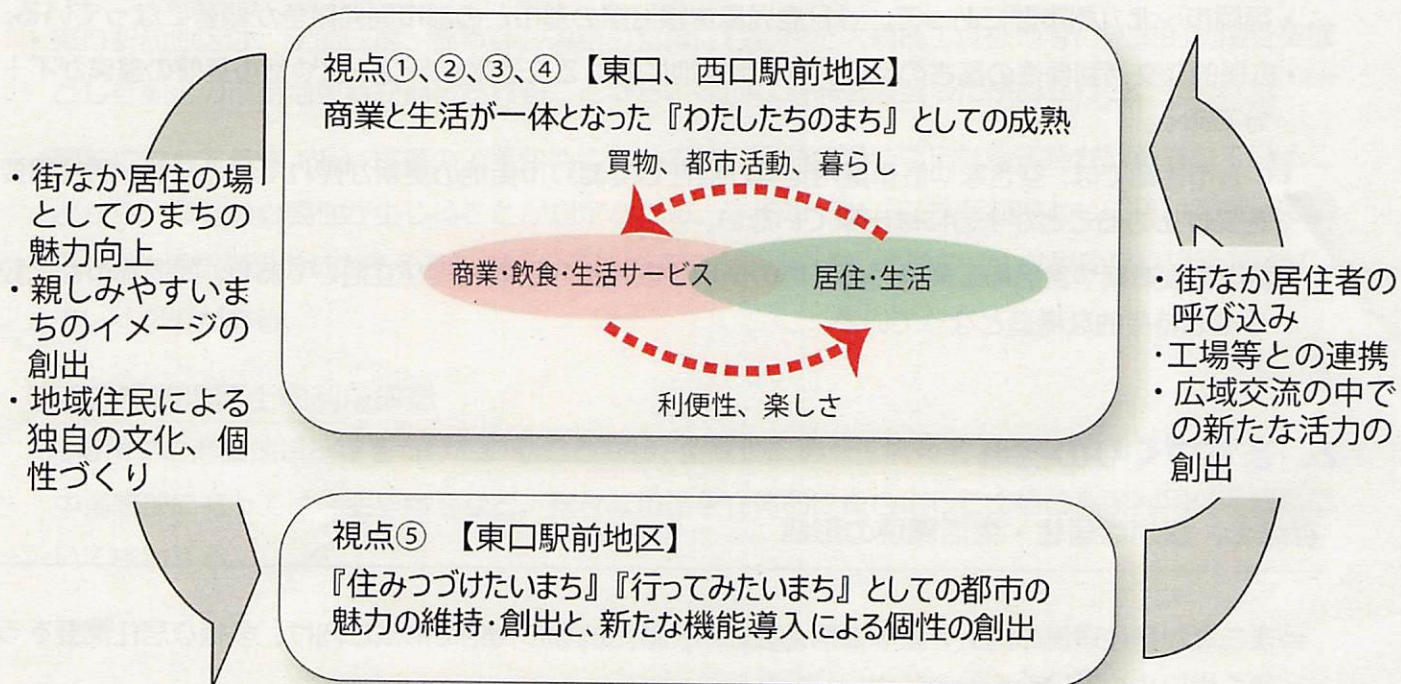
### 視点5. 「住みつづけたいまち」「行ってみたいまち」として広域的な魅力の創出

---

- ⇒古賀市としての特徴を生かした先導的なまちづくりを展開し、新しい機能導入を行う。
- ⇒工場との連携などによる食文化の充実、豊かな自然、美しい町並みなど、市街地のもつ普遍的なまちの魅力による、回遊の楽しさにより人々をひきつける。



▼好循環による東口駅前地区と西口駅前地区の一体的成熟



### 3. まちづくりのコンセプト

『住みつけたい』、『行ってみたい』  
みんなの笑顔が育むわたしたちのまち

～いつまでも、だれもが、  
安心と新鮮さを感じることができるまちをめざして～

### 4. 重点地区の位置づけ

古賀駅東口駅前地区及び西口駅前地区は、駅周辺地域整備の中核をなす区域であり、重点地区と位置づけ、土地利用、交通施設、導入機能等について具体的な方向付けを行う。

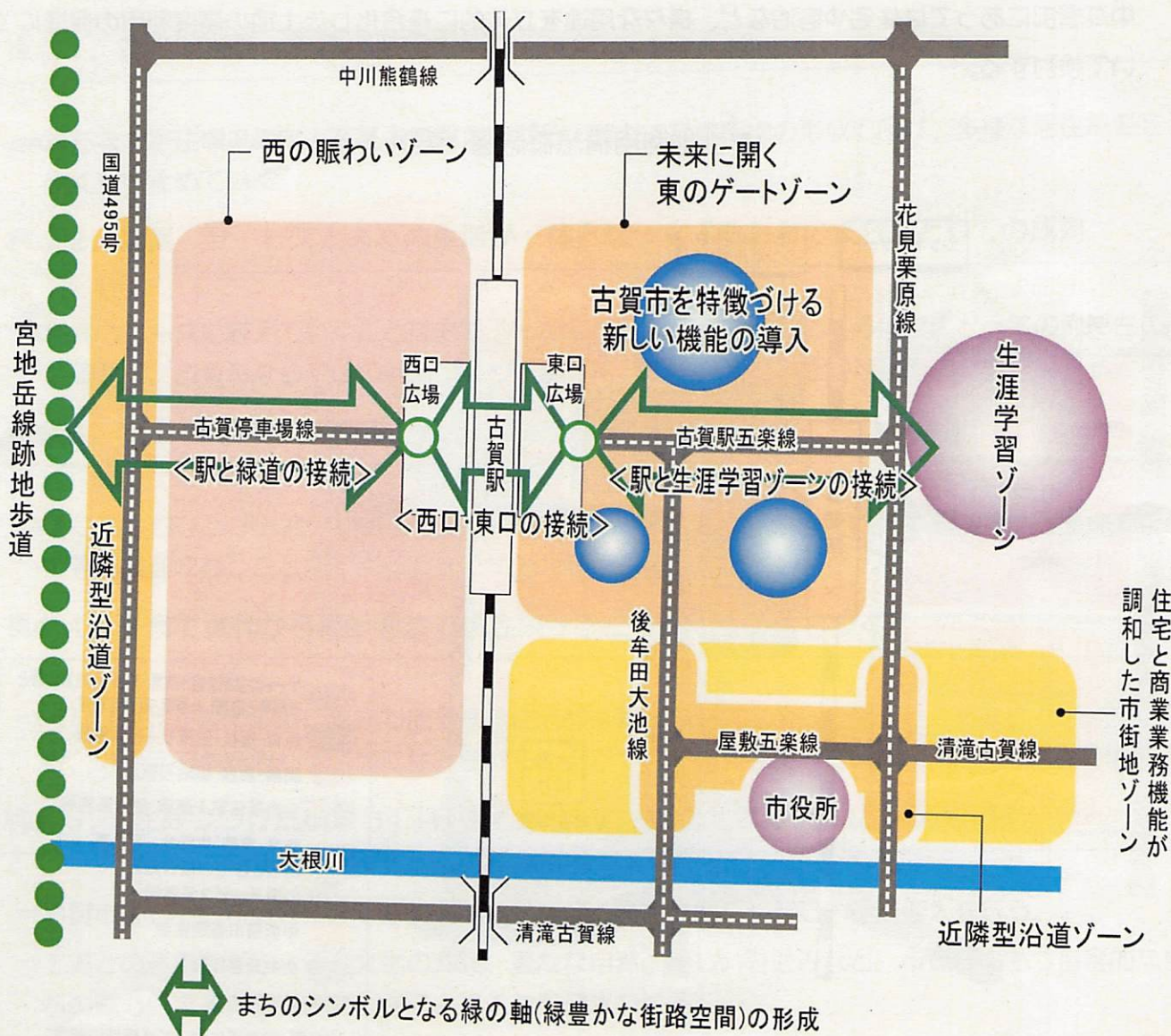


## 5. 駅東口と西口の連携の方針

駅前地区における商業環境と豊かな居住環境の調和・連携を図るため、既存の施設や機能を踏まえるとともに、面的整備の核として活用可能な土地が発生することも想定して、駅東口と西口の連携に向けて次のような地区形成を図る。

- 東口駅前における大規模街区を生かしたゲートゾーンの形成
- 東口と西口を結ぶ緑の軸の形成
- 東西を結ぶ古賀駅の魅力と機能の向上

▼駅東口、西口重点地区の連携概念図





## 6. 重点地区土地利用構想

### ○東口駅前地区土地利用構想

- ・東口駅前地区は、駅前広場、都市計画道路の整備に合わせた大規模工場敷地等の効果的利用を契機とした周辺の市街地更新が期待されることから、面的な整備を展望した検討を行う。
- ・駅前に立地する約 6ha 規模の工場敷地については、駅前広場や都市計画道路が計画されていることから、移転の必要性が生じることが想定される。本構想では、これを前提として検討を行っているが、古賀駅周辺の魅力あるまちづくりを進めていくためにも、当該敷地の効果的な活用策を検討していく必要がある。

### ○西口駅前地区土地利用構想

- ・高容積率の商業地域指定をうけていることから、低層部にあっては商業、飲食、生活サービスなど、中高層部にあっては住宅や宿泊など、様々な用途を立体的に複合化した土地の高度利用の促進について検討する。

▼土地利用構想概念図（案）

